



「東洋のダヴィンチ」が熱く語る

開発型技術屋集団

弊社は1960年に初代社長である父親が旋盤メーカーとして創業しました。1978年に、刈払機用刃研磨具(草刈り用の電動刃を研ぐ機械)「サンクグラインダー」が延べ100万台を売り上げる大ヒットとなりました。

1回なら偶然でもあり得ますが、弊社には2度目のヒットがあります。それが1985年に開発・販売開始したポータブル・エンジンスターター「バッテリーカ」です。

その他にも、時代の流れを読み、現場の生の声からニーズを収集し、先手を打った製品が多数あります。建築機械の不正燃料使用を防止する「チェッカーマン・エース」もそうです。

弊社は全員が研究者ですから、「開発型技術屋集団」をキャッチフレーズにしています。だからと言って、

なりません。農家にとってみれば、兼業で限られた作業時間を無駄にしないで済みます。こうして私はニーズを確信し、「バッテリーカ」を開発しました。

小さなボディで大きなバッテリーと同じパワーが出るように、電池内部の構造を強化。その結果1000アンペアを1分間出力することに成功しました。エンジンをかけるのには1分もあれば足りません。その後、建設機械用にもバージョンアップし、多くの大手建設機械メーカーのOEMを受注しました。

特許の期限が切れた今でも売れ続けているのは、他社製品とは耐久性が大きく違うから。真似できないように、真似できないノウハウがあるのです。安くても1回でダメになってしまう製品より、5年間使える製品が強いのは言うまでもありません。

産研学から生まれた「らくらく号」

「バッテリーカ」で資金的に大変余裕ができたので、今度は研究開発に注力しました。大学や研究機関に



電動運搬車「らくらく号」

自分たちが作りたいモノをただ作っているわけではなく、「どんな人が、どんな状況で使うモノなのか」を探究して製品に反映しています。

主力商品「バッテリーカ」

私が入社した当時「サンクグラインダー」が、飛ぶように売れていましたが、数年先を見越して、商品開発のため全国行脚を始めました。売れている商品を名刺代わりにして、青森ではニンニクの根を切る機械、新潟では稲の育苗箱の洗浄機など日本各地の「困りごと」を聞いて回ったのです。困りごとには次の商品のヒントがあると考えていました。

熊本の阿蘇で農協に立ち寄ったとき、地元の方が「トラクターのエンジンがかからない」と困っておられました。私の車にはいつも予備のバッテリーが積んでありましたから、「これでかかるでしょうか」

研究費用や特許申請費用を提供することで、つながりを強化してきました。

「産研学」連携の例としては、世界の学術雑誌「ネイチャー」「サイエンス」にも論文が発表された「水稻の花芽分化を阻害しない照明灯及び植物の花芽分化を制御できる照明灯の開発」などがあります。

現在最も注力している電動運搬車「らくらく号」もその一つ。奈良女子大学や奈良県農業研究開発センター、下市町の柿農家の皆さんと取り組んでいる「らくらく農法プロジェクト」の一環で、文部科学省の委託事業として開発しました。女性や高齢者も親指一つで駆動でき、楽に荷物が運べる機械で、バッテリーには弊社独自の「バッテリーカ」を活用しています。

高齢化が進む地域社会から国際社会に向けて、使う人のことを第一に考え、柿農家の皆さんの意見も取り入れ、1年にわたる試験運用を行いました。

また、平成28年3月4日には、東京大学安田講堂で電動運搬車の成果発表をし、大好評を得ました。また、(独) 科学技術振興機構が電動運搬車を東京大学柏キャンパスにて実装テスト公開することになり、今後は国内はもとより海外からの視察団にも広くPRされます。

従業員はすべて研究者

社是は、アインシュタインの公式「E=mc²」。うちでは、EはEnergy(エネルギー)、能力)、MはMan(人間)、VはVitality(挑戦)、Capacity(才能)、Create(創造する)などと解釈をしています。「学歴や年齢などに左右されず、目の前にある問題に真剣に全英知を傾注してやれば、必ず目標は達成でき

会社訪問記 三晃精機 株式会社

「産研学連携」を積極的に進める、大和高田市の三晃精機株式会社。農業を「ラクに楽しく」する電動運搬車「らくらく号」の開発で、高齢化が進む地域社会に貢献しています。らくらく農法(プロジェクト)で訪れたトルコでは、地元紙で「東洋のダヴィンチがやってきた」と紹介された笹岡社長に、研究・開発にける思いを伺いました。



(独) 科学技術振興機構のシンポジウムに出席して、電動運搬車を紹介(東京大学安田講堂前にて)



バッテリーカ

と声をかけたのです。「そんな小さなバッテリーでかかるわけがない」と一笑に付されましたが、物は試しで、皆さんがきらめけて帰った後に実際にやってみたら、なんとエンジンがかかったのです。

農協の方に見れば、各農家に予備のバッテリーがあれば、故障の際、急な呼び出しに走る必要がなくなる」と、挑戦や能力を最も重要視しているということを表しています。

開発や発明には心の感動が一番大事です。良い製品を作るのは当たり前。優れた技術を持つていても、そこに作った人の人間性や、会社としての魅力がないと、本当のファンはできません。

弊社の従業員は10人ですが、「10人しかない」のではなく、皆ががんばっているから「10人できる」ということなのです。それぞれが得意分野の研究を続けながら、商品開発にあたっては同じベクトルに力が結集する。これが三晃精機の大きな魅力となっていると思います。

社会に善意で貢献できているか。「三方良し」の精神で、今後も良い製品を提供し続けたいと思います。



三晃精機株式会社
「実際に使う人が一番メリットを享受できる製品づくり」がモットー。徹底して現場の声を聞く手法で、数々のユニークな製品を開発する。

| | |
|--------|---|
| 会社DATA | 代表取締役社長 笹岡 元信 |
| | 本社 大和高田市東三倉堂町 7-13 |
| | 従業員 10人 |
| | 電話 0745-52-0025 |
| | FAX 0745-23-2732 |
| | URL http://www.sanko-seiki.co.jp/ |